



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

かわさき健幸福寿プロジェクト

要介護度等改善・維持評価事業について



川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

1 かわさき健幸福寿プロジェクトの概要

令和3年度、主な改訂内容に

「自立支援・重度化防止」

○介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進

⇒「LIFE」の導入

⇒ADL維持等加算の拡充

今後、自立支援・重度化防止の推進の可能性

介護が必要になっても

「したい」「やりたい」をあきらめない！

介護が必要になっても、「こんな生活を送りたい」という目標を持って、
介護サービス事業所と一緒に、その達成に向けて取り組んでいただきます。

要介護度等の改善・維持につなげた事業所のケアを評価し、
インセンティブ（報奨）を贈呈します。

「したい」「やりたい」をサポートしている、
介護サービス事業所を
応援させていただきます！！



誰が参加できるの？

利用者の方は・・・

要介護1～5の認定を受けている方で
川崎市の介護保険被保険者証をお持ちのすべての方

事業所の方は・・・

市内に所在する**全ての指定介護保険事業所**

- ★在宅の場合は、ケアに関わる事業所でチームを結成して参加してください。
- ★施設等の場合は、施設内の多職種で連携して参加してください。

どうやって参加するの？

1 参加の確認

ご利用者様・ご家族様

参加の意思をケアマネジャーや
利用中の事業所のスタッフの方
にお示ください。

プロジェクトに
参加してみたいな！



事業所様

ご利用者様にお声かけいただき、
目標や参加の意思を
確認してください。

〇〇さんの想いを
叶えたい！



2 事業所でチームを結成



在宅の場合

ケアに関わる市内事業所で
チームを結成して参加してください。

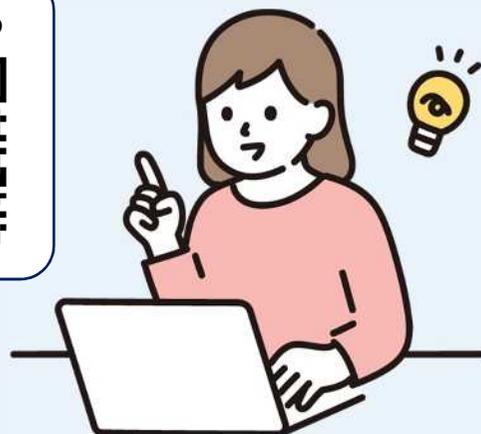
施設などの場合

ケアに関わる多職種で
連携して参加してください。

申込方法は？その後は何をするの？

3 参加の申請

詳細はこちら



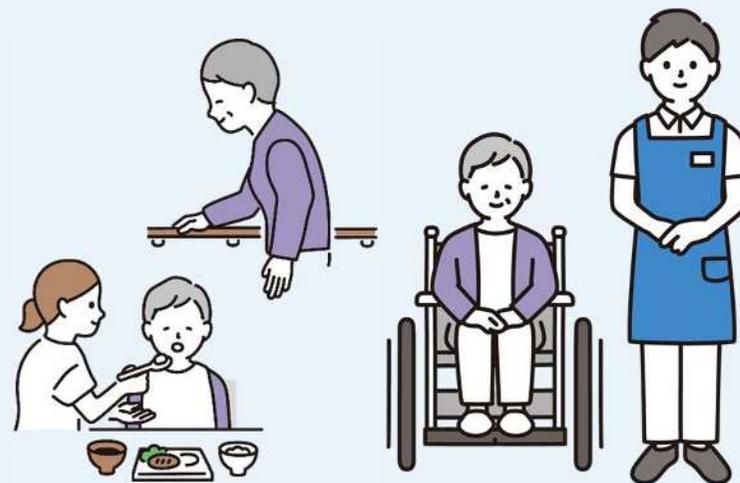
事業所の方が申し込みをしてください。

在宅の場合は、
チーム内で代表の事業所を決めて、
申し込みをしてください。

※居宅介護支援事業所以外からの申込も可能です。

4 サービスの提供

プロジェクトの取組期間は
7月から翌年6月まで



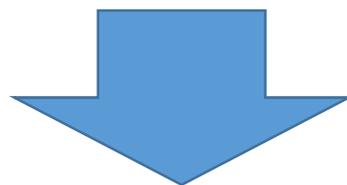
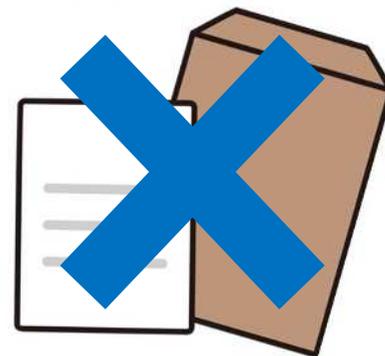
利用者の希望を踏まえて、
要介護状態の改善・維持に向け、
サービスを提供してください。

取組期間が終わったら？

評価

市が所有する介護認定のデータを用いて、
要介護度とADLで評価を実施

報告書等の提出はありません！



結果に応じて、
ご利用者様、事業所様にインセンティブを贈呈

取組期間が終わったら？

インセンティブの贈呈

ご利用者様

- ◆ 参加の証、キーホルダー
- ◆ 表彰式での市長からの表彰
- ◆ 記念品（要介護度等が改善した方）

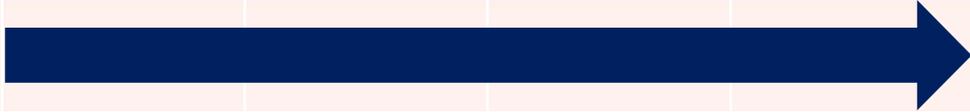


事業所様

- ◆ 報奨金（要介護度等が改善した場合）
- ◆ 表彰式での市長からの表彰
- ◆ 認証シールの交付
- ◆ 市ホームページ等での広報 など



第9期事業スケジュール

	令和6年			令和7年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
事業期間						
参加受付						
結果集計・評価						
アンケート調査						
講習会等	 説明会	 事例検討会		 事例発表会		 表彰式

表彰式について

第9期プロジェクト終了後、8月～9月頃に皆様の取組を発表し、その成果を讃えるため、川崎市長による表彰式を開催する予定です。

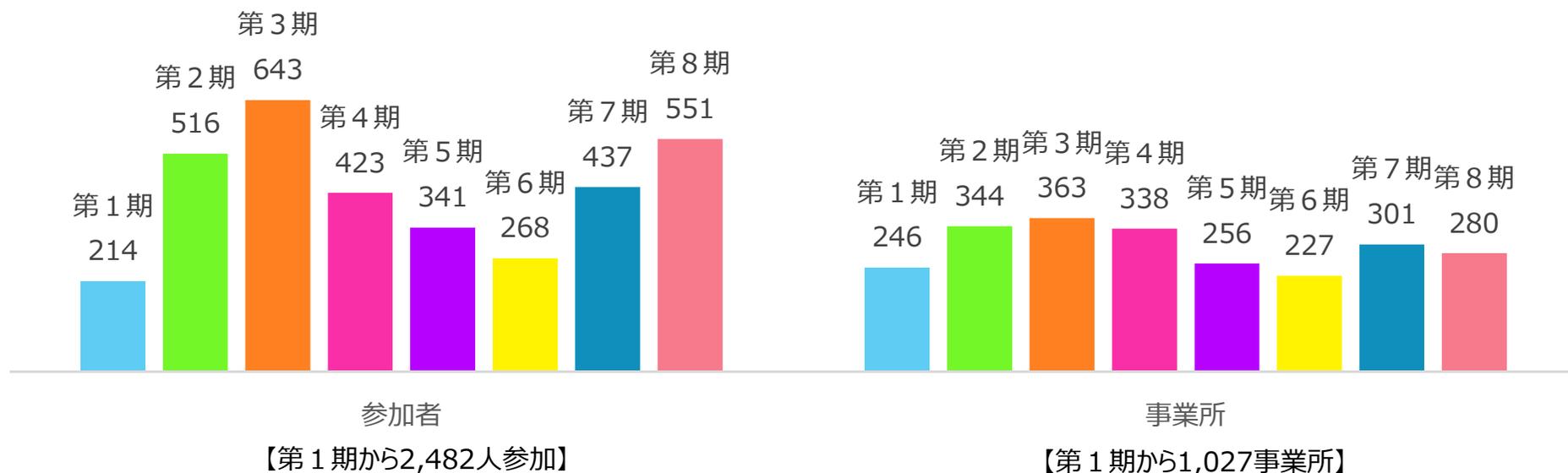
説明会・事例検討会・事例発表会等

プロジェクト参加事業所の皆様に事業の説明会や、有意義な研修会や講習会等を行う予定です。

2 第8期取組結果について

参加者数 : 551名
参加事業所数 : 280事業所
(のべ944事業所)

参加者数・参加事業所数の推移

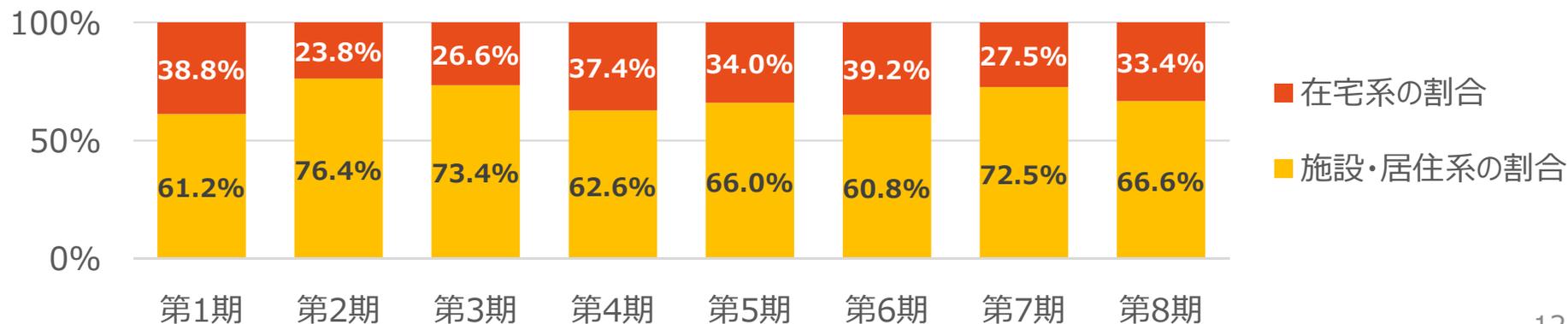


実施状況について

チーム事業所の参加数 1チームあたりの事業所数平均 など

参加チームについて	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期
参加全チーム数 = 全参加者数 [A+C]	214	516	643	423	341	268	437	551
在宅系チーム数 [A]	83	123	171	158	116	105	120	184
その他チーム事業所数 (のべ) [B]	213	290	407	395	249	272	302	393
チーム事業所総数 (のべ) [A+B]	296	413	578	553	365	377	422	577
1チーム平均の参加事業所数 [(A+B)/A]	3.57	3.36	3.38	3.50	3.15	3.59	3.52	3.14
施設・居住系チーム数 [C]	131	394	472	265	225	163	317	367
参加全事業所 (のべ) [A+B+C]	427	807	1,050	818	590	540	739	944
参加者全体における在宅系の割合 [A/(A+C)]	38.8%	23.8%	26.6%	37.4%	34.0%	39.2%	27.5%	33.4%
参加者全体における施設・居住系の割合 [C/(A+C)]	61.2%	76.4%	73.4%	62.6%	66.0%	60.8%	72.5%	66.6%

第1期－第8期 チーム種類別参加割合



要介護度の改善・維持に関する結果

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期
要介護度が改善	34	73	96	74	21	24	52	85
	15.9%	14.1%	14.9%	17.5%	6.2%	9.0%	11.9%	15.4%
要介護度を 平均以上維持	105	248	291	182	177	155	226	228
	49.1%	48.1%	45.3%	43.1%	51.9%	57.8%	51.7%	41.4%
改善・平均以上 維持以外	75	195	256	166	143	89	159	238
	35.0%	37.8%	39.8%	39.3%	41.9%	33.2%	36.4%	43.2%
合計人数	214	516	643	422	341	268	437	551

第5期、第6期の改善者数の減少（過去期と比較）については、「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱い」により、対面認定調査を回避するために従来の要介護状態区分を引き継ぎ、認定有効期間を12ヶ月（要介護1《不安定》の場合は6ヶ月）延長するケースが可能となったことなどによる要因と考えられます。

●参加者551名のインセンティブ対象区分について

要介護度 \ ADL改善	5ポイント以上	1～4ポイント	0ポイント	0ポイント未満	合計
	改善	23 4.17%	36 6.53%	9 1.63%	17 3.09%
平均を超えて維持	4 0.73%	17 3.09%	165 29.95%	42 7.62%	228 41.38%
上記以外	2 0.36%	20 3.63%	109 19.78%	107 19.42%	238 43.19%
合計	29 5.26%	73 13.25%	283 51.36%	166 30.13%	551 100.00%



金賞：91人



銀賞：244人



銅賞：216人

第8期 インセンティブ区分

● 事業所延べ944か所のインセンティブ対象区分について

要介護度 \ ADL改善	5ポイント以上	1～4ポイント	0ポイント	0ポイント未満	合計
	改善	61 6.46%	96 10.17%	21 2.22%	33 3.50%
平均を超えて維持	4 0.42%	20 2.12%	192 20.34%	74 7.84%	290 30.72%
上記以外	4 0.42%	37 3.92%	176 18.64%	226 23.94%	443 46.93%
合計	69 7.31%	153 16.21%	389 41.21%	333 35.28%	944 100.00%



金賞 : 219
事業所



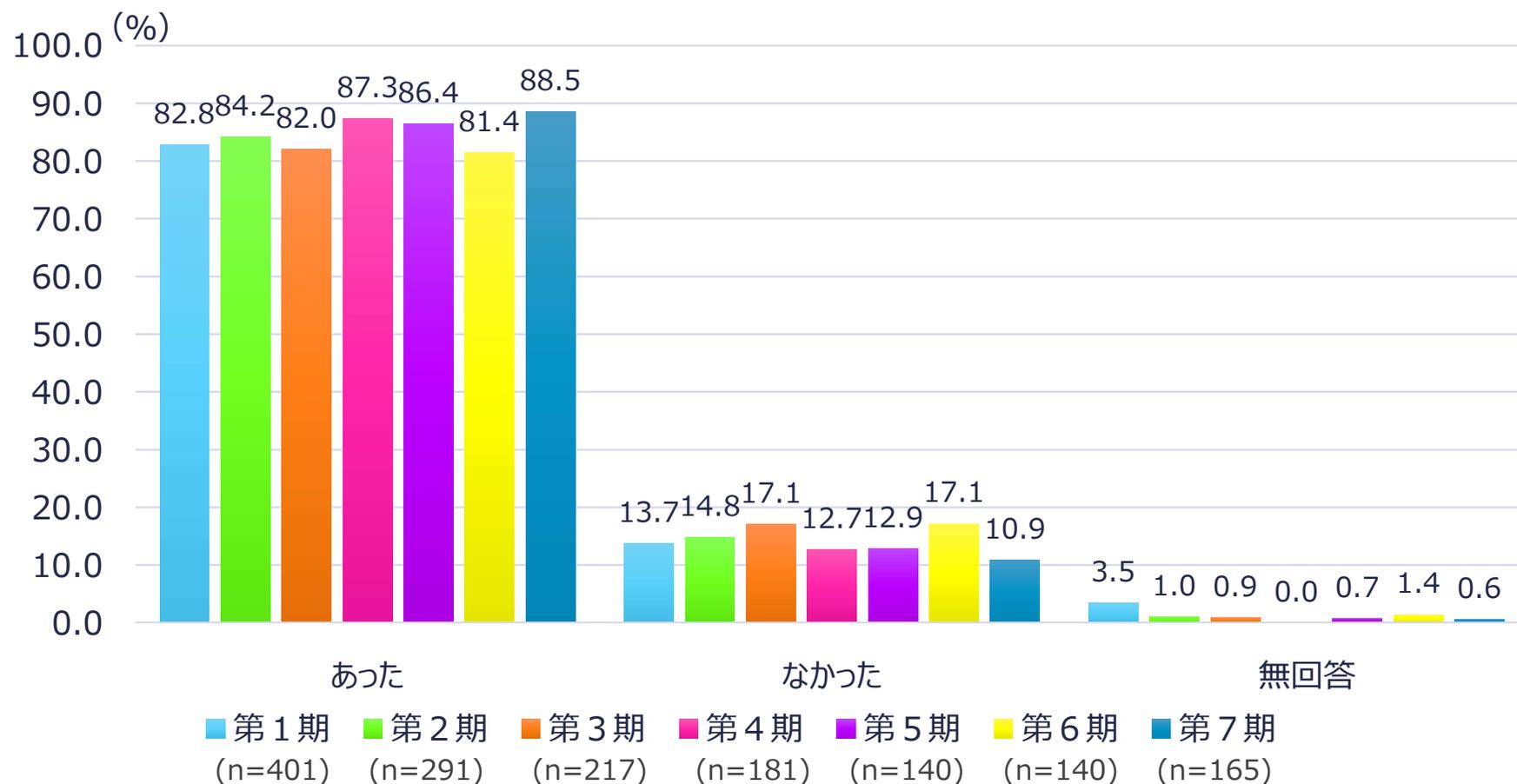
銀賞 : 323
事業所



銅賞 : 402
事業所

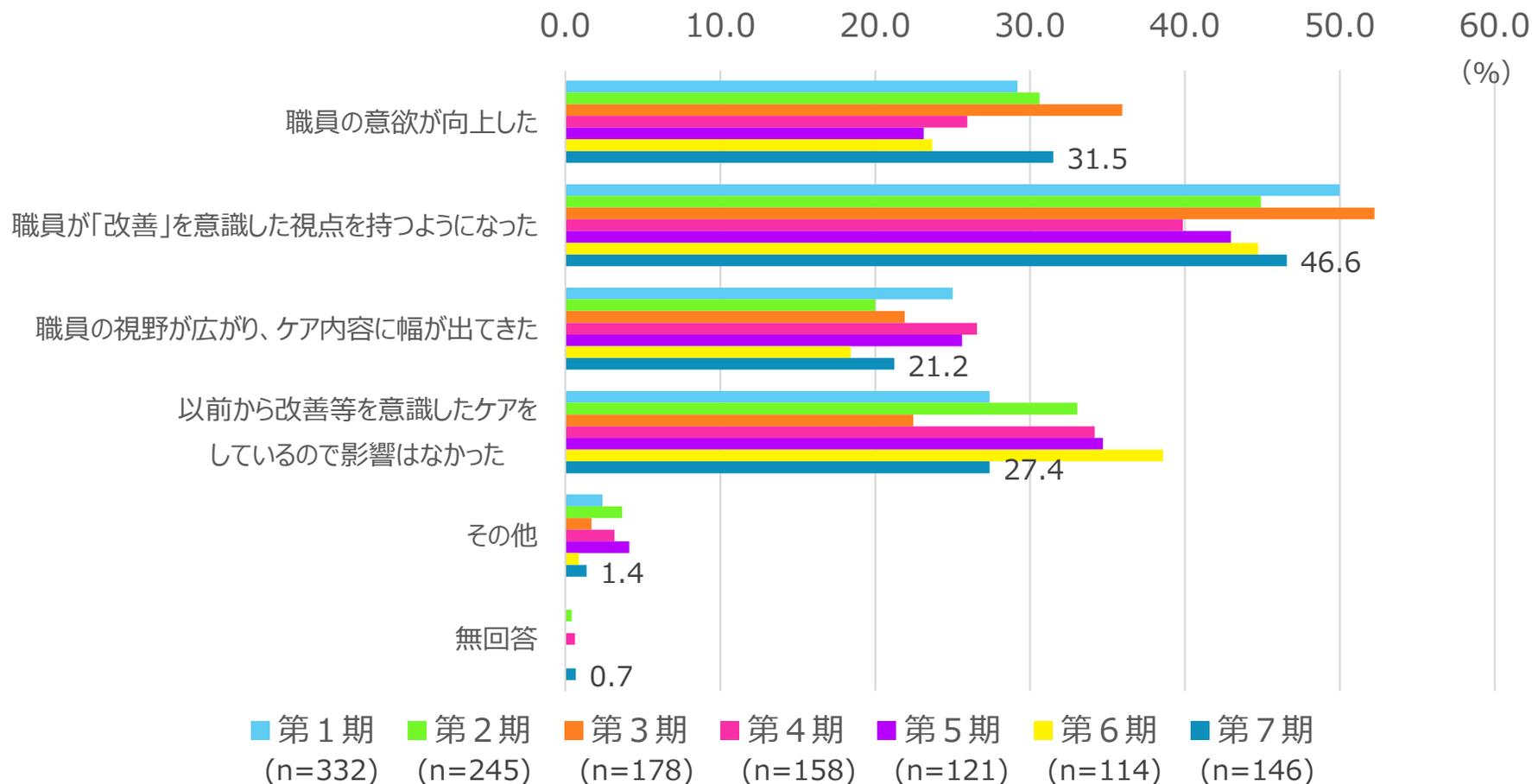
3 かわさき健幸福寿プロジェクト これまでの取組み結果 (第1期～第7期アンケート)

◆プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の影響



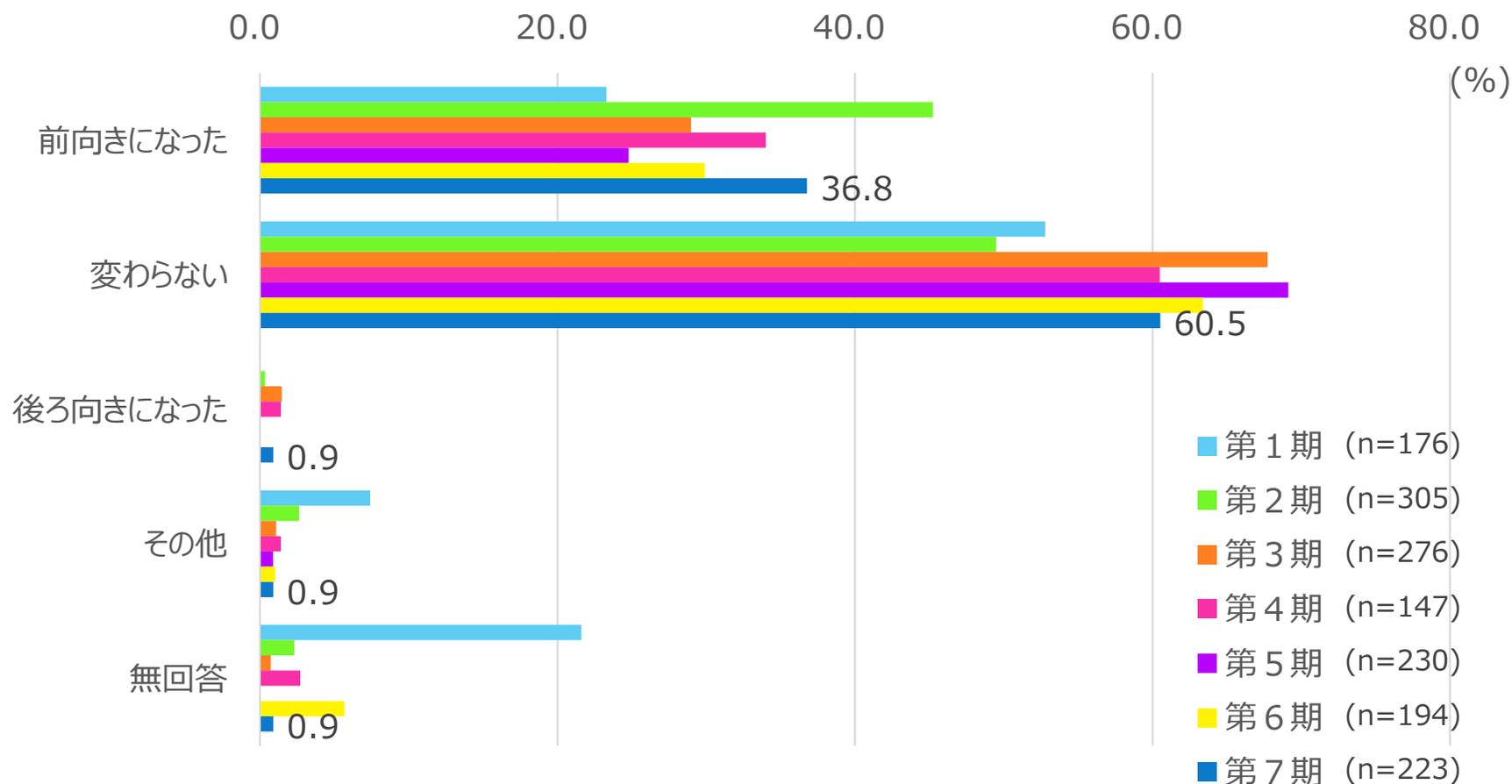
今までのすべての期において、80%を超える事業所からプロジェクトに参加したことによって、事業所に何らかのプラス面の影響があったことを確認しました。

◆プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の内容（複数回答）



「職員が改善を意識した視点を持つようになった」と回答した割合が最も多く、次いで、「職員の意欲が向上した」が多くなりました。

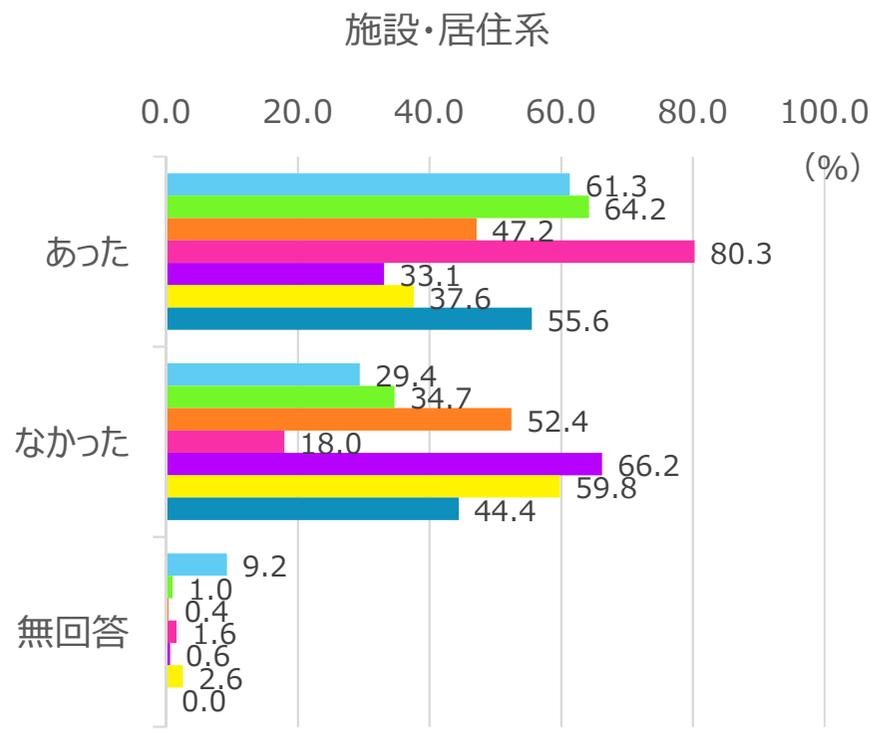
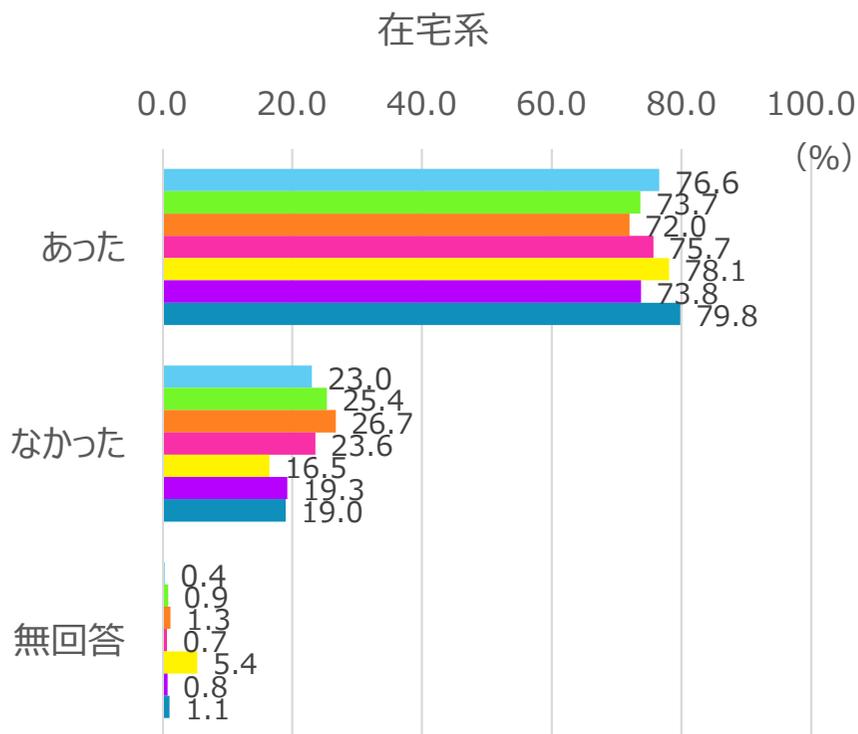
◆利用者の意識変化



プロジェクトに参加することで、気持ちが「前向きになった」利用者は全体の4割弱、「変わらない」が6割となっています。

事業所から見た利用者の状況

◆事業所から見た利用者・家族プラス面の有無



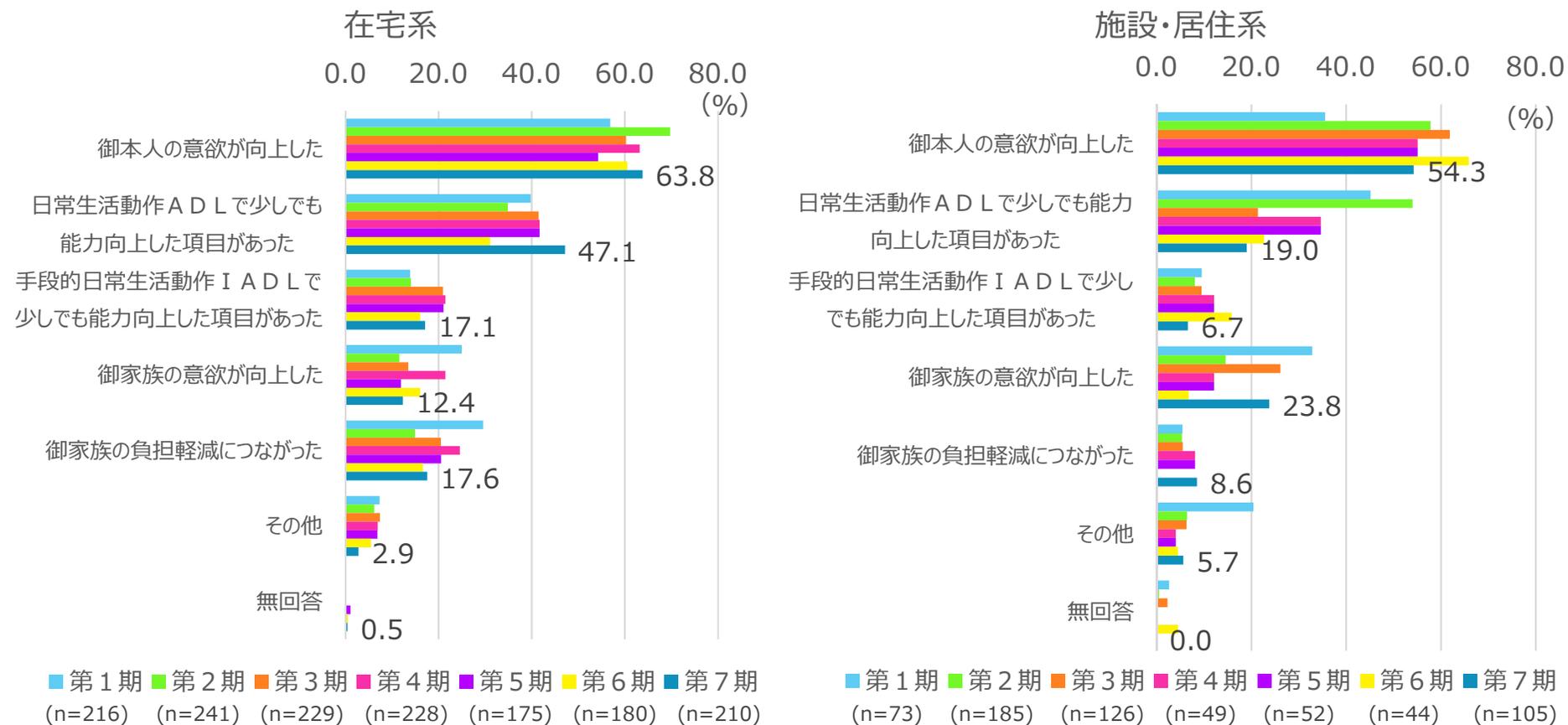
■ 第1期 (n=282) ■ 第2期 (n=327) ■ 第3期 (n=318) ■ 第4期 (n=301) ■ 第5期 (n=224) ■ 第6期 (n=244) ■ 第7期 (n=263)

■ 第1期 (n=119) ■ 第2期 (n=288) ■ 第3期 (n=267) ■ 第4期 (n=61) ■ 第5期 (n=157) ■ 第6期 (n=117) ■ 第7期 (n=189)

在宅系では、プラス面が「あった」が8割近くとなっています。

施設・居住系では、「あった」が5割強であり、「なかった」が4割強となっていますが、コロナ禍の5期・6期と比べると改善してきています。

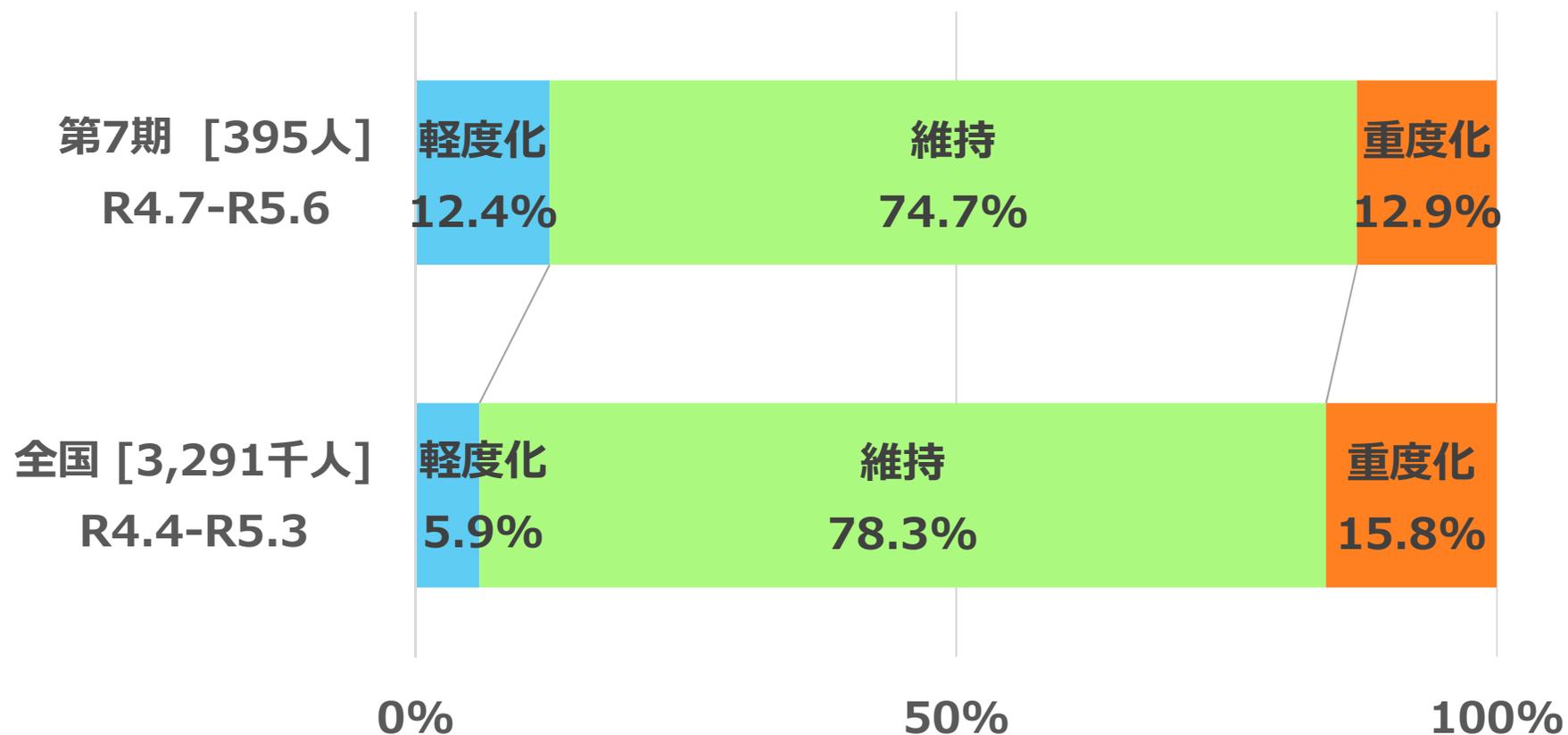
◆事業所から見た利用者・家族プラス面の内容（複数回答）



「御本人の意欲の向上」が最も高くなっています。
 施設・居住系では、過去3期と比べるとご家族の意欲向上が回復傾向にあると思われます。

介護度（全国との比較）

◆国の基準における介護度の変化



第7期参加者も、全国よりも高い割合で「軽度化」していました。